



資産運用

当社はお客さまの負託に応えるため、安全性と有利性を求めるとともに、生命保険事業の公共性に鑑み、社会性・公共性にも十分配慮した資産運用を行います。
また、資産運用を通じて、環境問題等、グローバルな社会課題の解決に貢献するとともに、投融資リスクの削減と新たな収益機会の獲得を目指してまいります。

2021年度の運用環境

2021年度の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に緩和される中で、持ち直しの動きが続きましたが、年明け以降は個人消費等にやや足踏みの動きが見られました。

海外経済については、新型コロナウイルス感染症による影響が緩和される中で、米国を中心に持ち直しの動きが続ききました。

上記のような経済情勢のもと、相場環境は以下のとおりとなりました。

長期金利は、日本銀行による金融緩和政策の継続はあったものの、海外金利の上昇等を受け、前年度末の0.12%から年度末は0.21%となりました。

ドル円相場は、米国が金融引き締め姿勢に転じ、日米の金融政策の方向性の違いが明確になったこと等により円安ドル高が進行し、前年度末の110円台から年度末は122円台となりました。

国内株式相場は、企業業績の回復基調は継続したものの、世界的なインフレ進行やウクライナ情勢の緊迫化が上値を抑え、日経平均株価は前年度末の29,178円から年度末は27,821円となりました。

10年国債利回り	0.120% 2020年度末	→	0.210% 2021年度末
為替相場（ドル/円）	110.71円 2020年度末	→	122.39円 2021年度末
日経平均株価	29,178円 2020年度末	→	27,821円 2021年度末



2021年度の取組み

- 2021年度は、国内金利が引き続き低位で推移したことから、国債等への資金配分を抑制する一方、分散投資を通じてリスクの抑制に取り組みつつ、2025年の経済価値ベースの規制導入を見据え、リスク対リターン効率の優れたクレジット投融資^{※1}等に積極的に取り組むことにより、資産運用収益の向上に努めました。
- PRIに署名している責任ある機関投資家として、スチュワードシップ活動を推進するとともに、ESG（環境、社会、ガバナンス）要素を考慮した投融資の推進に取り組みました。
- 当社および当社の資産運用子会社である朝日ライフアセットマネジメント株式会社と、フランスの大手資産運用会社ナティクシス・インベストメント・マネージャーズとの間で締結したビジネスパートナーシップに基づき、事業展開における協力関係の強化および投資機会の拡大に努めました。

※1 社債や貸付等への投融資により、収益を獲得する投資手法。

運用実績の概況（一般勘定）

一般勘定資産残高 **5兆5,112億円** (2020年度末) → **5兆4,759億円** (2021年度末)

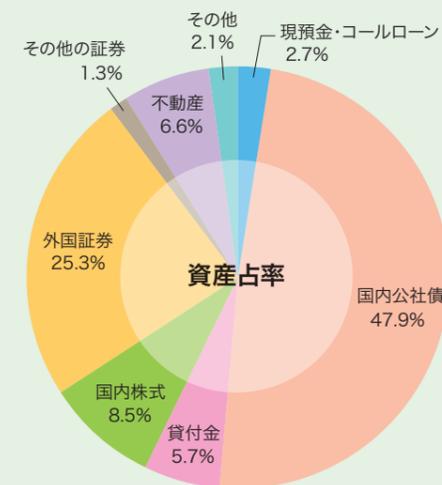
資産配分 2021年度は、国債等の新規組入れを抑制する一方、リスク対リターン効率の優れたクレジット投融資を中心に資金配分を行いました。

各資産の運用状況

- 国内公社債は、国債等の買入れを抑制する一方、信用スプレッドを確保できる社債等を買入れました。
- 貸付金は、国内外の再生可能エネルギー関連のプロジェクトファイナンスに積極的に取り組みました。
- 国内株式は、企業の収益性や配当利回り等を勘案し、一部の銘柄入替を実施しました。
- 外国証券のうち、外貨建債券は、社債等の買入れに加えて一部の銘柄入替を行い、利回りの向上に努めました。また、オルタナティブ投資^{※2}は、景気変動の影響を受けにくく、安定した収益獲得が見込めるファンド等を中心に買入れました。
- 不動産は、テナント誘致等を通じた収益力向上に努めました。

※2 伝統的な運用資産である株式や債券の代替投資とされるインフラファンド、不動産投資信託（リート）およびヘッジファンド等を活用した投資手法。

一般勘定ポートフォリオ（資産占率）



今後の取組み

- 2025年の経済価値ベースの規制導入を見据え、経済価値型ポートフォリオへの移行を進めます。
- グローバルに金融引き締め局面であることに加え、ウクライナ情勢やインフレ等不透明要素が多いことを踏まえ、持続的な資産運用収益の確保に向けて、投資対象資産の分散等を通じ、リスクを低減しつつ収益の確保を目指します。
- 責任ある機関投資家として、スチュワードシップ活動およびESG（環境、社会、ガバナンス）投融資の推進により、環境問題等、グローバルな社会課題の解決に貢献し、投資リスクの削減と新たな収益機会の獲得を目指します。

責任投資の取組み

当社は「ESG 投融資の基本方針」と「スチュワードシップ責任を果たすための基本方針」に基づく投融資を「責任投資」と位置づけ、取組みを推進しています。

特に、社会課題の解決に向けて「気候変動」と「健康の確保」を重点取組みテーマとして選定し、ESG 投融資への取組みを加速しています。

2021年度のESG投融資の取組み

■非財務情報を考慮した資産運用(インテグレーション)

従来の上場株式に加え、全資産で投融資先企業の財務情報に加えて、非財務情報(サステナビリティに関する情報)を考慮した資産運用を開始しました。

■サステナビリティに関する課題の対話(エンゲージメント)

上場株式に加え、債券や融資の投融資先企業と、サステナビリティに関する課題の対話を実施しました。

■テーマ型投融資

再生可能エネルギーを対象としたプロジェクトファイナンス等を中心に、テーマ型投融資を推進しました。

■ネガティブスクリーニング

以下を対象にネガティブスクリーニングを実施しています。

- ・石炭火力発電開発事業、非人道的兵器製造企業(核兵器製造企業を含む)、たばこ製造企業

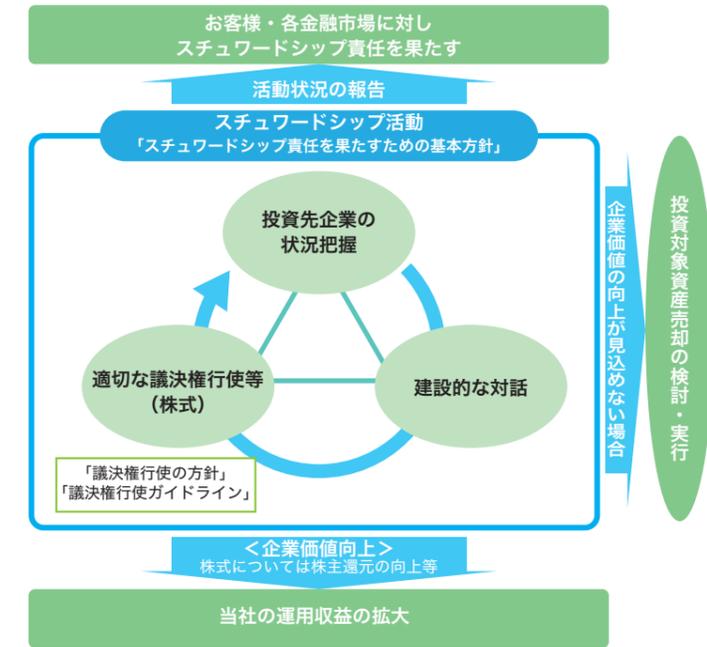
■2021年度の主なESGテーマ型投融資実績

投融資案件	案件内容
ナティクス*が発行するグリーンボンド	本債券は、BPCEグループの持続成長債券プログラムに基づき投融資先の選定や管理・評価が一体的に実施され、調達資金は再生可能エネルギー事業やグリーンビルディングの新築・改修等に充当される予定です。 *フランス第2位の銀行グループBPCEの完全子会社。なお、朝日生命グループとナティクスの子会社であるナティクス・インベストメント・マネージャーズは2019年3月に相互の事業および投資機会の拡大のために、資産運用面での提携関係を強化することに合意しております。
カーボンニュートラルファンド	本ファンドは再生エネルギーを「つくる」発電事業に投資するだけでなく、投資先の発電施設で発電した再生エネルギーを、当社を含む本ファンドの出資者に供給し、「つかう」ところまで一気通貫で行うことが特徴となっており、2021年12月6日に環境省の「グリーンファイナンスモデル事例創出事業」における国内初のモデル事例としてインパクト・ファイナンス(インパクト特定型)に認定されています。

2021年度のスチュワードシップ活動の取組み

当社はお客様から保険料としてお預かりしている資産を、将来のお支払に備えて安定的かつ効率的に運用することを目指しています。

スチュワードシップ活動は投資活動の実効性を中長期的に高めていくため、極めて重要な業務と位置づけています。

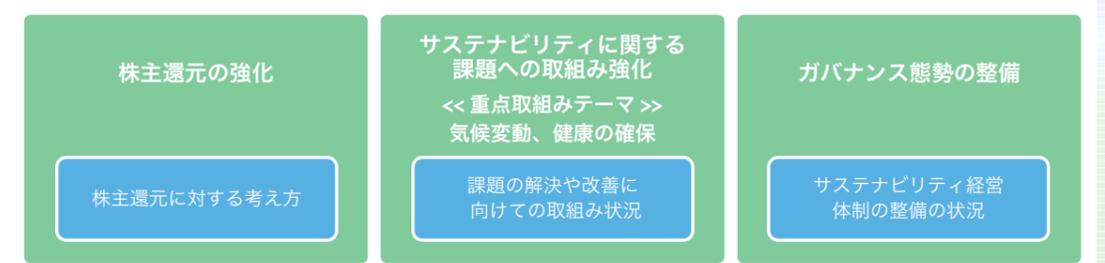


対話活動 エンゲージメント

当社は建設的な対話をスチュワードシップ活動における主要な柱と位置付けており、企業価値の向上や持続的な成長を促すための重要な取組みであると考えています。

- 投資先企業との対話に際しては、事前に業績動向、財務内容、経営計画の内容および進捗状況、サステナビリティ課題への取組み状況、コーポレートガバナンス態勢等を分析・把握したうえで、対話の対象となる投資先企業を選別し、それぞれの課題を設定し、意見交換を行います。
- 2021年度の対話の取組み内容は以下の通りです。
 - ・お客様からお預かりしている資産の中長期的な運用効率の向上を図るという観点から、「①株主還元の強化」「②サステナビリティに関する課題への取組み強化」「①・②を実現するためのコーポレートガバナンス態勢の整備」の3点を主眼として対話を実施しました。
 - ・サステナビリティに関する対話については、重点取組みテーマである「気候変動(カーボンニュートラルに関する対話等)」や「健康の確保」に関する課題を中心に実施しました。

■当社スチュワードシップ活動の主なテーマ



気候変動への対応

投融資ポートフォリオについて、温室効果ガス排出量の2030年度中間削減目標(2020年度比▲39%)および2050年度の同排出量をネットゼロとする削減目標を設定しました。(環境への取組みの詳細は68ページ参照)